

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700645		
法人名	有限会社 ケア・ワン		
事業所名	グループホームふなお		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂1953-1		
自己評価作成日	平成22年3月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3372700645&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3372700645&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の人間性を特に大切に考えています。趣味などの生きがいをホームに入居されても継続できるように考えています。また、医療機関との連携も、今までのかかりつけ医を変えることなくそのまま対応させて頂く事で、不安を感じることなく、健康管理を行う事ができるよう対応しております。地域との交流についても、船穂という地域性を生活に活かせるよう、スイートピーやマスカットの農園へ収穫体験を行わせて頂いたり、地域行事への自由な参加を行わせて頂いています。 職員の離職を軽減するために、小さいホームですが、誕生日休暇などの特別休暇の創設、有給休暇消化、就業中の職員の怪我に対する民間の保険に加入する等、職員の入れ替わりを極力なくすよう勤めていることを最近では目標にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは平成21年より共有型デイサービスを始めた。3名の登録であるが現在は1~2名が通っている。ホームに居た人が症状も良くなり在宅に帰った人が馴染みのあるホームを利用するようになったので、グループホームの中で違和感を持たず利用者と一緒に過ごしていた。もう一つのこのホームの特長は、18人中の利用者のうち、15人が昭和生まれの人が集まっていることである。特に昭和4~5年生まれ以降の人は戦後の教育を受け、高度成長期の日本を支えた一員として働いた若い世代である。このホームでは余り目立たなかったが、グループホーム等で介護を受ける新しい世代が大勢現われたことである。これからの介護のあり方を生み出さねばならない時代に入っていきと予感した。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員で話し合いを行い、決めました。見えやすい場所に掲示しいつでも確認出来るようにしている。	施設からの脱却を目指し、家庭的な雰囲気の中で生活したいという考えは代表者からも職員からも伝わってくる。確実に理念を共有し実践できていることは、利用者の職員に対する信頼した声掛けから感じられる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に参加するようになっている。	地域の人が八朔や桃を届けてくれたり、民生委員の人の家のマスカットやスイートピーを摘みに行かせてもらったりしている。年末には玉島商業野球部員がワックス掛けをしに来てくれたりと良い関係がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、地域へ、向けての情報発信など十分ではありません。今後検討し対応していきます。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行いました、季節の外出等で良い場所はないかなどの意見をもらい、外出場所の参考にしている。	初めは参加者も多かったが今は少なくなっているため市にも参加呼びかけのFAXを送ったり、地域の人にもっと参加してもらえるよう考案中。認知症についての勉強会や講演会を開くことも考えている。	来年度は6回の開催を最初から計画し、会議の内容も楽しみにして来てもらえるようなテーマを選んで委員が出席しやすいよう配慮してもらいたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や社会福祉事務所等、処遇の対応に困ったときにはすぐに連絡をしています。	倉敷市介護保険課や社会福祉事務所、介護保険事業者等連絡協議会等にデイの相談、共用型の事や入居者の旅行の付き添いはどの様に対応したら良いか等迷う事があればその都度相談している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作り、また参考資料と一緒にファイルし、いつでも閲覧出来るようにしている。	身体拘束をしないケアは職員会議に徹底している。利用者の状態に合わせて事故があったらホームの責任になることも考え、止むを得ず施錠したこともあるが、通常はいつも開けてあり自由に出入りできる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作り、また参考資料と一緒にファイルし、いつでも閲覧出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を現在利用している方が実際おられます。担当弁護士さんとは必要に応じて連絡を取ったり、担当の方とは、運営推進会議に参加して頂いております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明をおこなった上で、同意をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機関を設けることはしていませんが、その都度、ご意見伺っております。過去は家族会を設けて、運営に関するご意見を頂いておりますが、現在は運営推進会議にて拝聴しております。	家族には生活状況を知らせている。身寄りのない利用者が多く家族の面会は限られているが、特に身寄りのない人や新しく入った人に対しては最新の注意を払い、後へ追いやられることのないよう話し合っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議、ユニット会議、全体会議を設けています。また、必要に応じて意見交換をしております。	代表者はいかに職員の待遇を良くするかを常に考えている。引越しや結婚で辞めた人がまた帰って来たという例もある。代表者は個人面談も行っている。会議では出しにくいことも日々の関わりの中で感じている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、賞与、残業支給など雇用契約に基づききちんと支給しています。誕生日休暇等の特別休暇を始め、有給休暇の消化、就業中の職員の怪我に対する民間保険加入、倉敷市互助会制度加入、中小企業退所金共済加入、パート職員賞与支給など。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は、船穂町商工会と協力し外部講師に依頼、全4回にわたりマナーアップ講習を行いました。また、職員交代で外部の研修に参加しております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員交代で、介護事業所運絵向上ネットワークの職員交流会に参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にしっかりコミュニケーションを図り、GHでの生活等の意向を聞きながらケアプランを作成している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の意向を聞きながらケアプランを作成し、また、面会の時などに、随時要望等がないか聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員や、ケースワーカーと相談し、家族やご本人のご希望に添うよう努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアプランによるケアの統一を行い、出来る作業などを一緒におこなうようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活状況を文章で伝えたり、その都度、面会時などに話が出来るよう環境を作っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に、本人、家族から生活歴を聞いたたり、日々の生活の中で情報を得るようにコミュニケーションを取るようになっている。希望があれば、以前住んでいた所に出掛けたり、電話を掛けたり、手紙を出したりもしている。	本人や家族からの生活歴を基に映画、パチンコ、ボートに付き添う事もある。墓参りや昔住んでいた九州に行くことも考えた。泊まりがけの付き添いは職員の給与面での扱いに迷い、行政に相談。実現したいと思っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間に入り、話がしやすい環境を作ったり、利用者それぞれの居場所があり、また、1人で居られる時には職員が寄り添うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な例では、退所への取組みに成功した方が在宅から共有型デイサービスとしてサービス利用をされている方がおられます。出来るだけなれた環境が良いというご家族とご利用者の方の意見を取り入れ実現したものだと考えています		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活への意向を聞き、ケアプランに取り入れ、また、日々の話の中から要望が出たら、その都度対応している。	利用者の意向に添うよう努力している。通販でダンスを買った人も居る。朝のチラシを見ながら食べたい物があれば作って見たり、コーヒー牛乳が買いたい人には一緒に買いに行ったりと小さい希望も叶えたい。	職員と利用者のコミュニケーションをもっと進め、日頃の会話の中から本人の気持ちや希望を記録しておき、それを介護計画やその人の生活に生かすようにしてもらいたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族、本人から生活歴を聞いたり、日々の会話の中から情報を得ることもある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤帯・夜勤帯・医療面で色を変えて介護記録し、看護師による、状態の観察をおこなったり、病院への定期受診の介助をおこなっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にて、利用者の処遇の話し合いをしたり、毎月、モニタリングをおこなっている。	申し込みが来たら話を聞いて暫定的ケアプランを作成する。ホームに入所して1~2週間経過して生活や会話の中からお互いの意志疎通をはかりながら本人の気持ちを聞きとり、本プランを作成する。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて、状態等の情報の共有を行い、気付いた事があれば、その都度話し合いをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的な旅行の対応、映画や、競艇、絵画展など柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まず、長年住み、暮らしてきた場所で支えられた医療機関(なじみの医者)をそのまま活用しております。その他…		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	何かあれば、相談、指示がもらえ、また、利用者の状態に合わせ、他病院への紹介をして頂いている。	利用者は遠方からの身寄りのない人が多く、職員が受診に付き添う事が多い。事務所には利用者ごとのかかりつけ医の一覧表があり、何かあればすぐに連絡が取れるようにしている。家族が受診に行く人も居る。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による、利用者の状態確認、定期受診をおこなっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な、電話や面会による、現状の把握し、退院時期の話を行い、退院時には、次回の受診の事や、グループホームでの対応仕方などの助言をもらっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのチーム化、マニュアルがあり、本人、家族に説明し、同意書をいただいている。	看護師が一人なので24時間医療行為が必要な人や病院でないと対応が出来ない人は入院してもらおう。自然老衰の利用者については本人や家族が望むなら看取りたいと考えている。今迄にも老衰でホームで亡くなった人も居る。年々重度化するので家族とも話をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、見えやすい所に掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり、見えやすい所に掲示している。また、年二回の避難訓練をおこなっている。	スプリンクラー、自動火災通報装置設置済み、避難訓練は夜間を想定して行っている。消防署の分署が近くにあり、消防署にも来てもらった。運営推進会議に団長を呼んでいるが更なる地域との協力体制を確立したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナーアップ研修等も行い、敬語をきちんと使うよう指導しております。	利用者のいやがる言葉、動作をなくすための外部講師を招いて研修を行っている。テーマはコミュニケーションの取り方。職員は利用者の人格を尊重した対応が出来る。時に子や孫の様な対応も微笑ましい。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、本人の希望や思いを聞いたりし、その都度対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランにて、生活への方針を定めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回、散髪があり、髭剃りの声掛け、介助をおこなっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事形態を把握している。普段の会話の中で、食べたい物などを聞いて、一緒に買い物に行ったりもしている。食器拭きなどを手伝ってもらっている。	朝食・夕食はホームで作り、昼はデイサービスから来る日もあり、月・火曜日はホームで作る。利用者の希望を聞きながら職員が決める。訪問の日、焼き鮭か鮭寿司か希望を聞いていたが、夕食時美味しそうな鮭寿司が出た。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表があり、摂取量が少ない時には、摂取回数を増やしたり、好みの物を準備したりして確保している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアをおこない、毎夕食後に、いれば洗浄剤にて、入れ歯のケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導、介助をおこなっている。	各人の排泄パターンを把握している。部屋にポータブルを置いている人も居る。ベッドで過ごすことが多い人もトイレ誘導している。リハビリパンツから布パンツに改善でき、気力もしっかりしてきた人も居る。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者の方には、しっかり水分を摂ってもらい、運動絵の声掛けをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番などの希望を聞いたり、入浴時にはしっかりコミュニケーションを図っている。	月曜から土曜まで風呂介助の専門員が来てくれるので、職員と2人で対応でき安全面でも心配ない。マスカットユニットは月・水・金。ピーチユニットは火・木・土に入る。一人で入れる利用者には午後からゆっくりと入ってもらえる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その都度対応しております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の袋に、名前・日付が書いてあり、服薬直前にも確認している。個々のカルテに服薬中の薬の一覧表がある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を踏まえ、役割分担があり、また、趣味の活動が出来るように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体の状態を考慮し、希望に沿って外出の支援をおこなっている。日々の買い物等の外出はよくしている。	気候の良い時は散歩をよくしている。近くに店があるので利用者の歩行状態を見ながらリハビリがてら買物にはよく行く。駐車場で兎を飼っているため利用者と職員が当番制にして世話をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が、お小遣いとしていくらかを持ち、自己管理している。それで、外出時などに好きな物を買われている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、電話を掛けたり、手紙を出したりの支援をおこなっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節感の出る壁画を飾っている。	玄関を中心にマスカット・ピーチの各ユニットに分かれている。ゆったりと広いリビングで食卓テーブルに座る人、ソファで並んでテレビを観る人等思い思いに過ごす。訪問した日は薄型テレビ納入で盛り上がった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファがあり、そこで気の合った者同士で談話して過ごされたり、テレビを見て過ごせれるようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていたタンスやテレビ等を持ち込まれていたり、仏壇を持って来ている利用者の方も居られる。	居室にはそれぞれの思いが込められている。家族の写真を缶にぎっしり持っていたり、短冊や写真を飾ったりしている。部屋にはパソコンを置き、職員にインターネットに接続してもらっている利用者も居る。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒に繋がる物は廊下に置かないようにしている。		